

Arcserve UDP 10.x

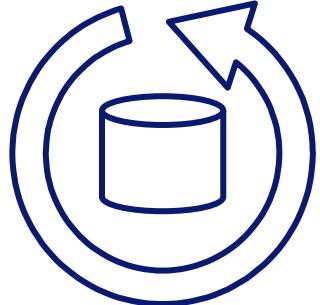
新機能紹介

arcserve Japan 合同会社

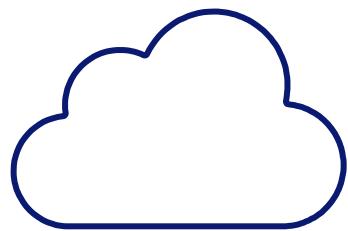
2025年12月

Rev.2.0

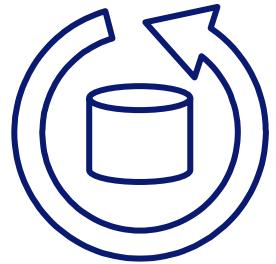
Arcserve UDP 10 とは



サイバー レジリエンスを
次の段階へ



オンプレミスも
クラウドもしっかり保護

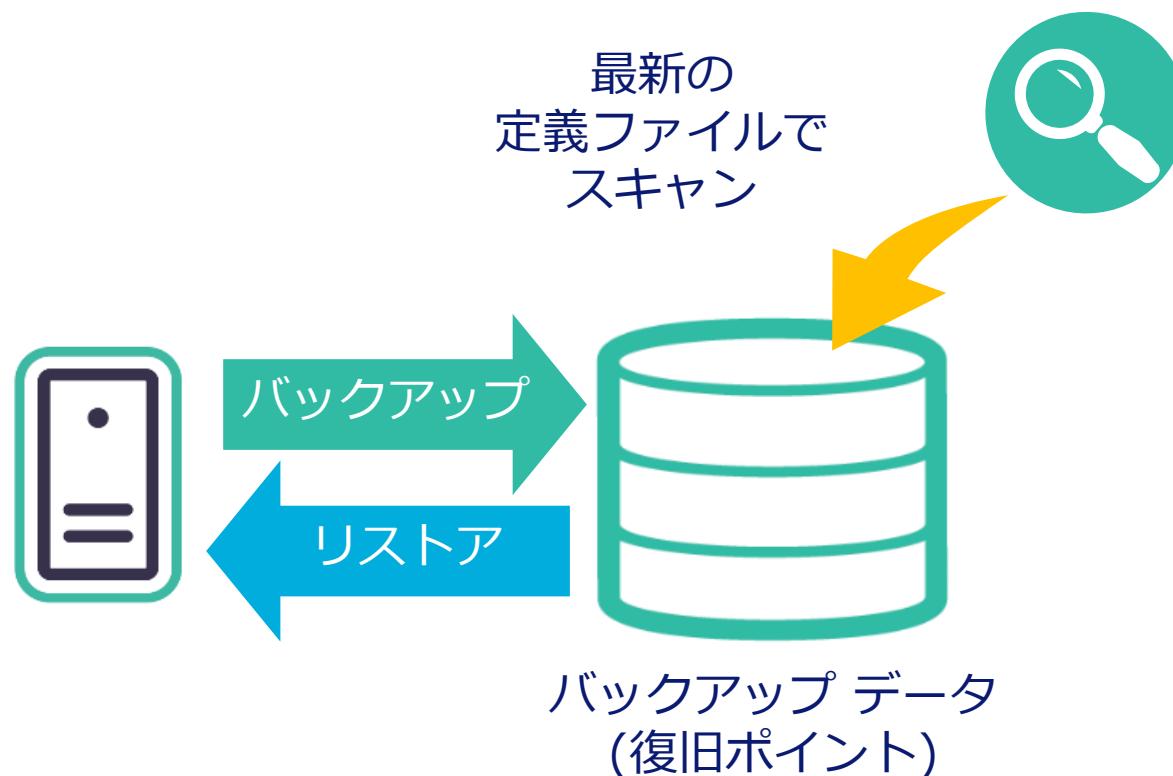


サイバー レジリエンスを 次の段階へ

アシュアード セキュリティ - マルウェア スキャン

お客様に
とっての
価値

安全確認が取れたバックアップデータでリストアできる



- ✓ バックアップ後に自動、またはリストア前など手動でバックアップデータのウイルススキャンが可能
- ✓ スキャンは安心の Microsoft Defender を利用
- ✓ 最新のセキュリティ定義ファイルでウイルスやワームの侵入検知

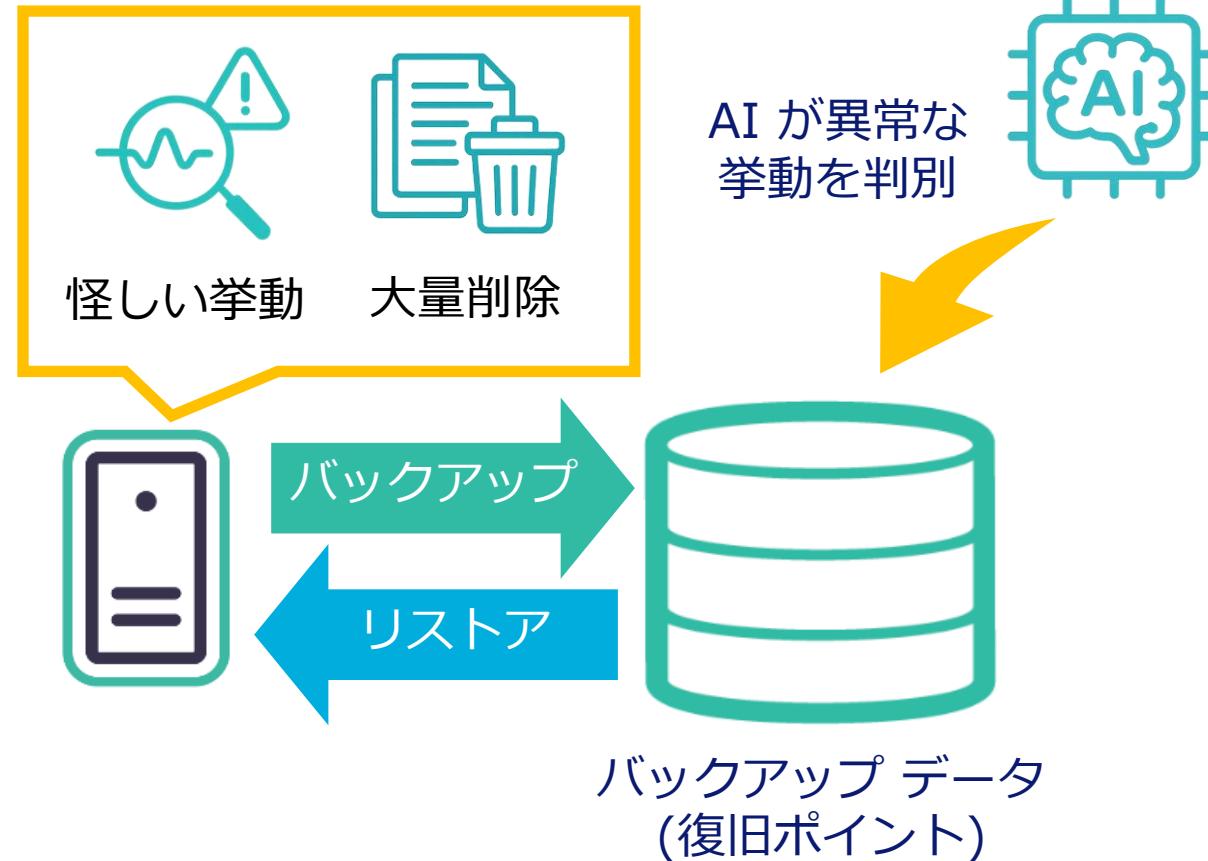
※ Arcserve UDP Premium Edition 以上が必要

注: Arcserve UDP 10.2 までは「アシュアード セキュリティ スキャン」と表記

アシュアード セキュリティ - AI 異常検出

お客様に
とっての
価値

本番サーバへの攻撃を、
復旧ポイントを介して早期に検出できる



- ✓ バックアップ後にスケジュール実行
- ✓ 暗号化パターン、大量削除、一括リネーム、不審なファイルといった異常な振る舞いを検出
- ✓ AIによる異常検出で、復旧ポイントの潜在的リスクを低減

※ Arcserve UDP Premium Edition 以上が必要

アシュアード セキュリティの構成例

バックアップデータの検査は「プロキシ」が実行

- ✓ 本番サーバ/本番サービスに負荷がかからない
- ✓ 本番サーバのアンチウイルス製品はそのまま利用可



※1 UDP Windows Agent または 復旧ポイントサーバ（RPS）と兼務可
※2 マルウェア スキヤンはプロキシ サーバの Microsoft Defender を利用

～サイバーレジリエンスを次の段階へ～

＜参考＞アシュアード セキュリティの各検査結果の確認

過去のマルウェア スキャンおよび異常検出の実施状況を一覧で確認

復旧ポイント						
サマリ > win2k25sv1						
リフレッシュ						
日付	セッション名	時刻	異常検出	マルウェア スキャン	アシュアード リカバリ	バックアップの種類
▶ 今日						
▶ 昨日						
▶ 過去 7 日間						
◀ 過去 30 日間						
2025/11/17	S0000000392	2025/11/17 22:00:03				増分 毎日
2025/11/16	S0000000391	2025/11/16 22:00:07				増分 每日
2025/11/15	S0000000390	2025/11/15 22:00:07				増分 每日
2025/11/14	S0000000389	2025/11/14 22:00:07				増分 每日
2025/11/13	S0000000388	2025/11/13 22:00:07				増分 每日
2025/11/12	S0000000387	2025/11/12 22:00:07				増分 每日

検査未実施のバックアップデータが一目で確認できる

マルウェア スキャンにより、悪質なファイル / フォルダが見つかった場合のアクティビティログ

ジョブの種類	メッセージ ID	メッセージ
アシュア...	10817	アシュアード セキュリティ ジョブが失敗しました。
アシュア...	30689	アシュアード セキュリティ ジョブを停止しています。
アシュア...	30616	ポリューム [F:] が正常にマウント解除されました。
アシュア...	20770	悪質なフォルダ/ファイルが見つかりました。 詳細については、復旧ポイント サーバの [D:\R-DSY1_DataStore\udp-svr[e880abd7-8e1b-492c-8c7f-4d577423511b]\VStore\\$0000000002\AntivirusScanResult.CSV] ファイルを参照してください。
アシュア...	32189	スキャン済みアイテムの総数 = 155。
アシュア...	32181	ポリューム [F:] のアンチウイルス スキャンが完了しました。
アシュア...	11080	ポリューム [F:] は悪質です。
アシュア...	32188	スキャンするアイテムの総数 = 155。
アシュア...	32180	ポリューム [F:] のアンチウイルス スキャンを開始しています。
アシュア...	32182	ポリューム [F:] が正常にマウントされました。

＜参考＞アシュアード セキュリティに関するよくある質問

Q マルウェアスキャン後、バックアップデータ（復旧ポイント）からマルウェアを削除したり、復旧ポイント自体を隔離しますか？

いいえ、マルウェアの削除や復旧ポイントの隔離は行いません。マルウェアを検知した場合、アシュアード セキュリティ マルウェア スキャン ジョブは失敗扱いとなり、対象の復旧ポイントに記録が残ります。これにより、マルウェアを含む危険な復旧ポイントが把握できます。

Q 復旧ポイントサーバがアシュアード セキュリティの Windows プロキシ サーバを兼務する場合、何か注意することはありますか？

使用する復旧ポイントサーバのシステム要件（CPU やメモリの要件は[Arcserve UDP 10.x 動作要件](#)を参照）に以下の Windows プロキシ サーバのシステム要件を合算したサーバをご利用ください。

[Windows プロキシ サーバのシステム要件]

- ・**サーバ**： Windows Server 2012 以降
- ・**CPU**： 4 コア 2.2 GHz 以上のプロセッサ
- ・**RAM**： 8 GB 以上

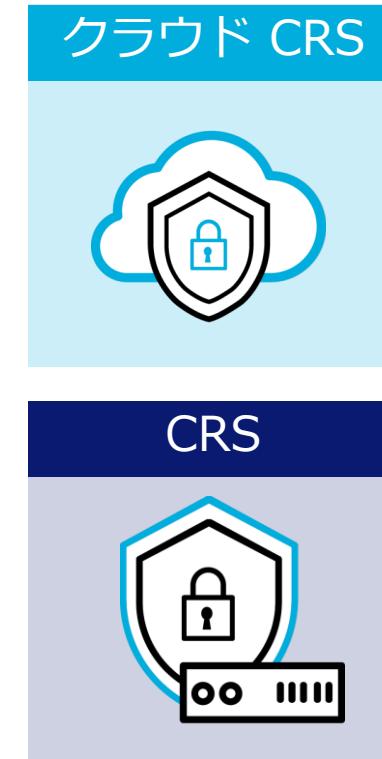
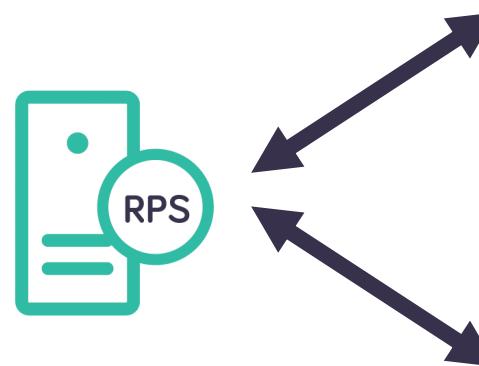
※ アシュアード セキュリティ - マルウェア スキャンに関するその他のよくある質問については

[「Arcserve UDP : アシュアード セキュリティ - マルウェア スキャンのよくある質問と回答」](#)を参照ください。

Arcserve CRS シリーズでのバックアップデータ保管

お客様に
とっての
価値

イミュータブル（不变）ストレージで
ランサムウェア攻撃からバックアップデータを守れる



- ✓ RPS データストアのデスティネーションとして、クラウド CRS / CRS を利用
- ✓ サイバー攻撃を受けても、いつもの Arcserve UDP コンソールから簡単にデータを復旧
- ✓ 繼続的な増分バックアップ/重複排除で、ストレージコストも抑制できる

参考：[Arcserve Cyber Resilient Storage \(CRS\)
シリーズ紹介資料](#)

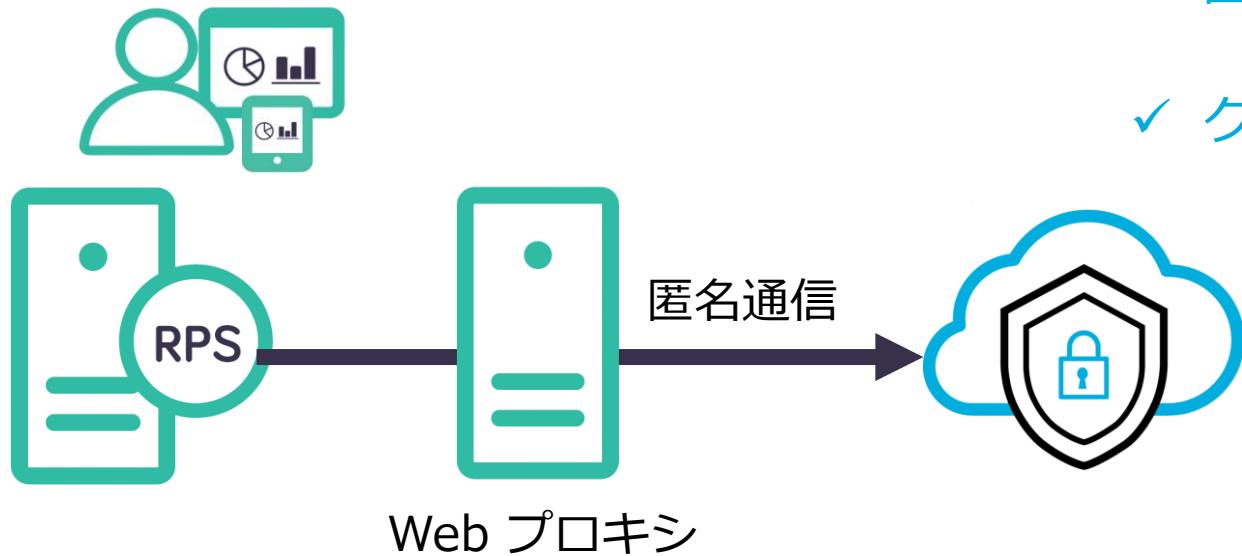
クラウドCRS の Web プロキシ サポート

お客様に
とっての
価値

ご利用の Web プロキシを通して Arcserve クラウド サービス
に接続できる

- ✓ オンプレ環境からWeb プロキシ経由でクラウド CRS および Arcserve Cloud Storageに接続
- ✓ 匿名による通信でセキュリティを強化
- ✓ クラウドアカウント作成時に Web プロキシを設定

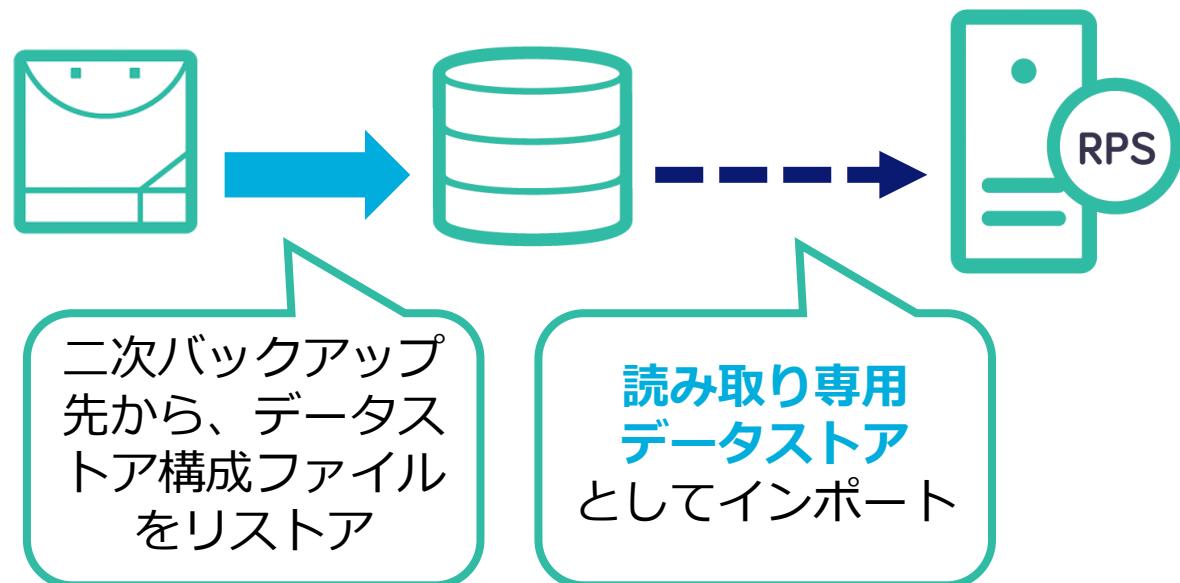
Arcserve UDP コンソール



RPSへの読み取り専用データストアのインポート

お客様に
とっての
価値

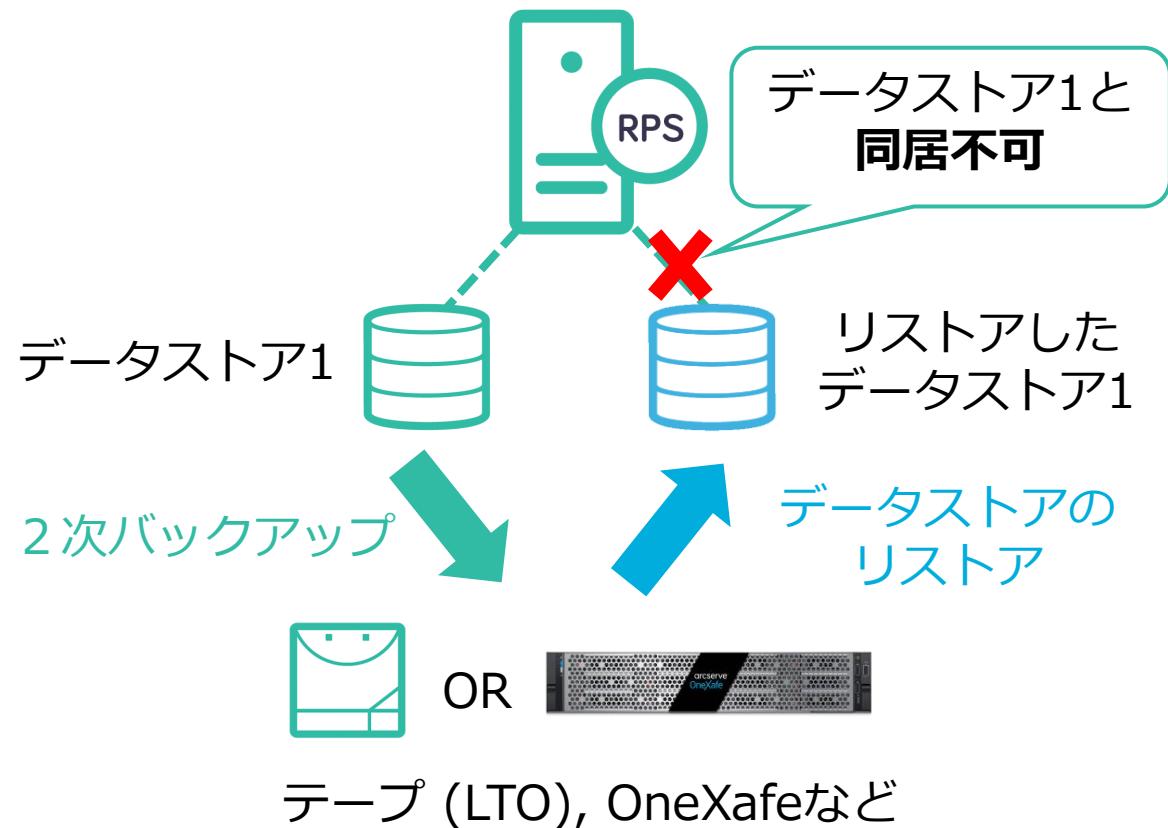
バックアップの運用を変えずに
二次バックアップデータのリストア試験を行える



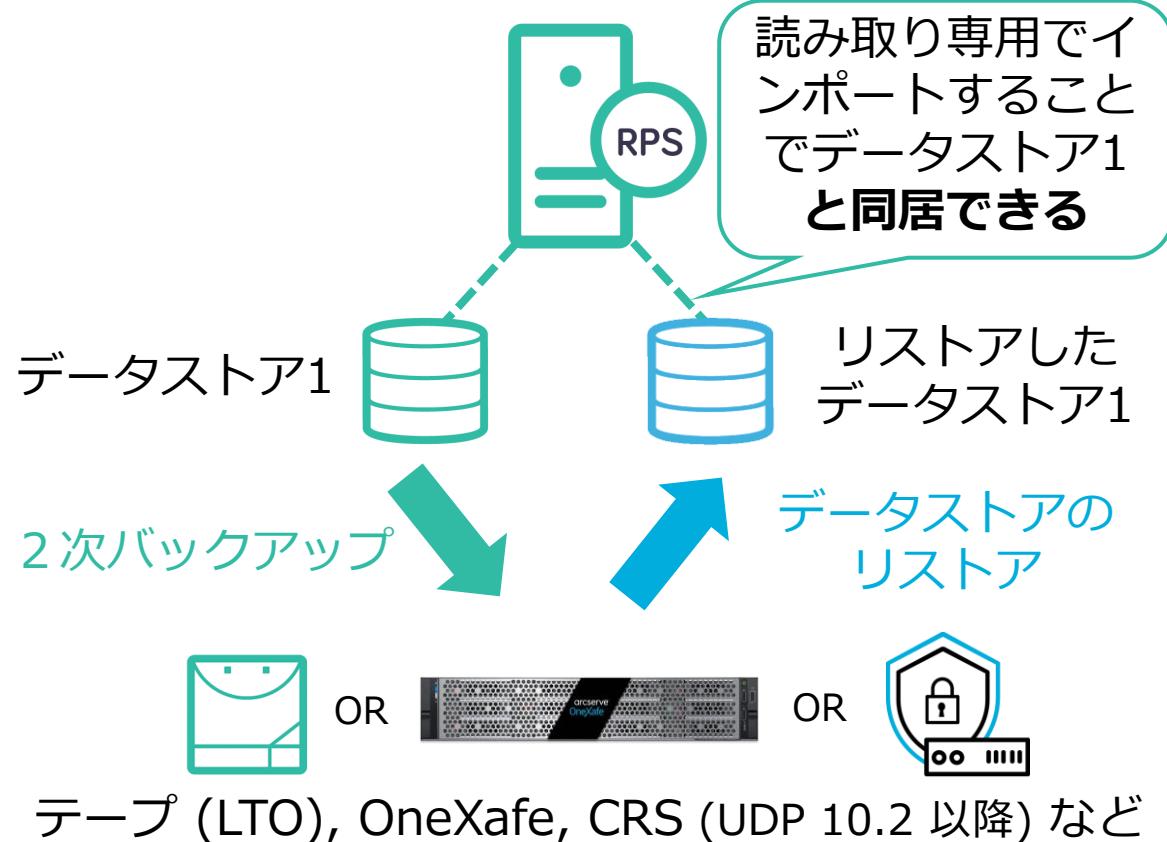
- ✓ 元のデータストアとの同居が可能
(詳細は次ページ参照)
- ✓ リストア専用のデータストアとして利用
(インスタントVM、アシュアード セキュリティ スキャン、仮想スタンバイも実行可能)
- ✓ Arcserve CRS シリーズのスナップショットからのリストア時に利用
- ✓ 重複排除データストアではメモリ消費を抑制したインポートが可能
(ハッシュ領域不要)

＜参考＞読み取り専用データストアの利点

Arcserve UDP 9.x まで



Arcserve UDP 10.0 以降

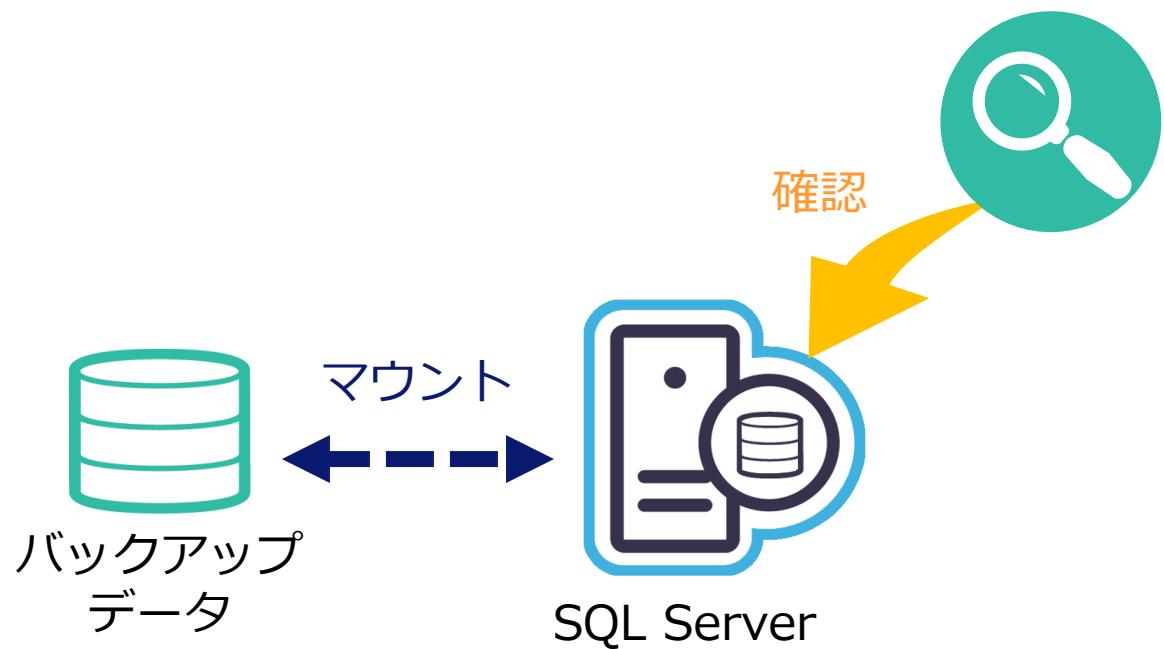


利用中のデータストアの登録を削除せずに、複製したデータストアの中身を確認できる

SQL データベースのバックアップデータのマウント

お客様に
とっての
価値

リストア前にデータベースの内容を確認できるので、
無駄なリストアを避けられ、復旧時間を短縮できる



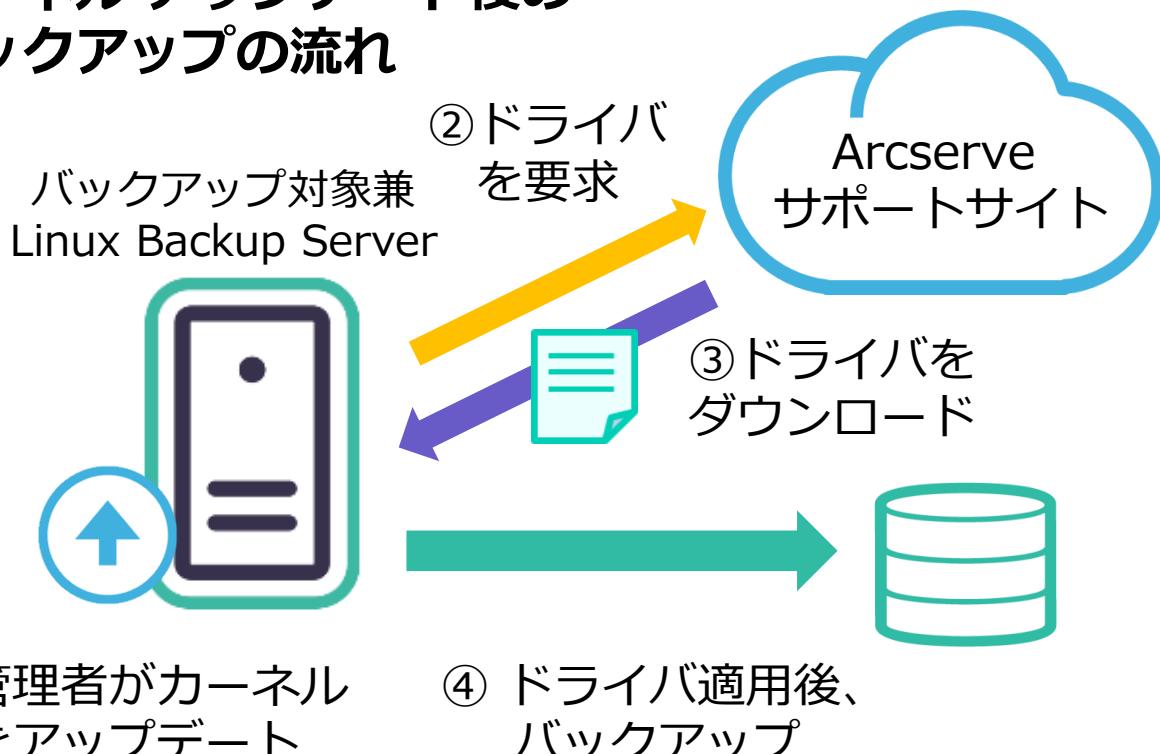
- ✓ バックアップデータを疑似 DB として Microsoft SQL Server にマウント
- ✓ 任意の時点の DB データでマウント可能 (PITリストア有効時)
- ✓ RPS または ローカルディスクや共有フォルダのバックアップデータを利用可
- ✓ 編集可能な検証用データベースとしても利用可

新しい Linux カーネル用ドライバの自動適用

お客様に
とっての
価値

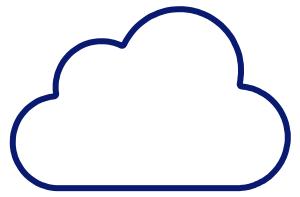
新カーネルに対応した Arcserve UDP ドライバを自動適用し
更新作業の負荷を軽減できる

カーネル アップデート後の
バックアップの流れ



- ✓ バックアップ時に必要なドライバを確認して自動適用
- ✓ Arcserve のサイトから新しいドライバを自動ダウンロード
- ✓ 対象は RHEL系 9.x、Debian 11.6以降、SUSE 15 SP5 から

※ Ubuntu では 従来バージョンより同等機能あり
※ Linux Backup Server に curl または wget が必要



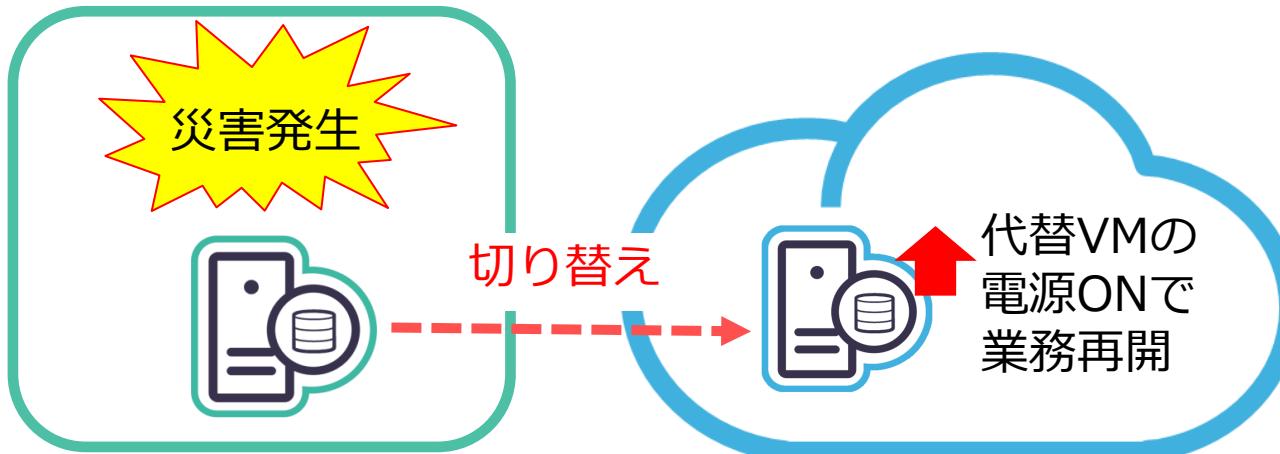
オンプレミスも
クラウドもしっかり保護

Google Cloud への仮想スタンバイ

お客様に
とっての
価値

災害時に Google Cloud で業務をすぐに再開できる

オンプレミス環境

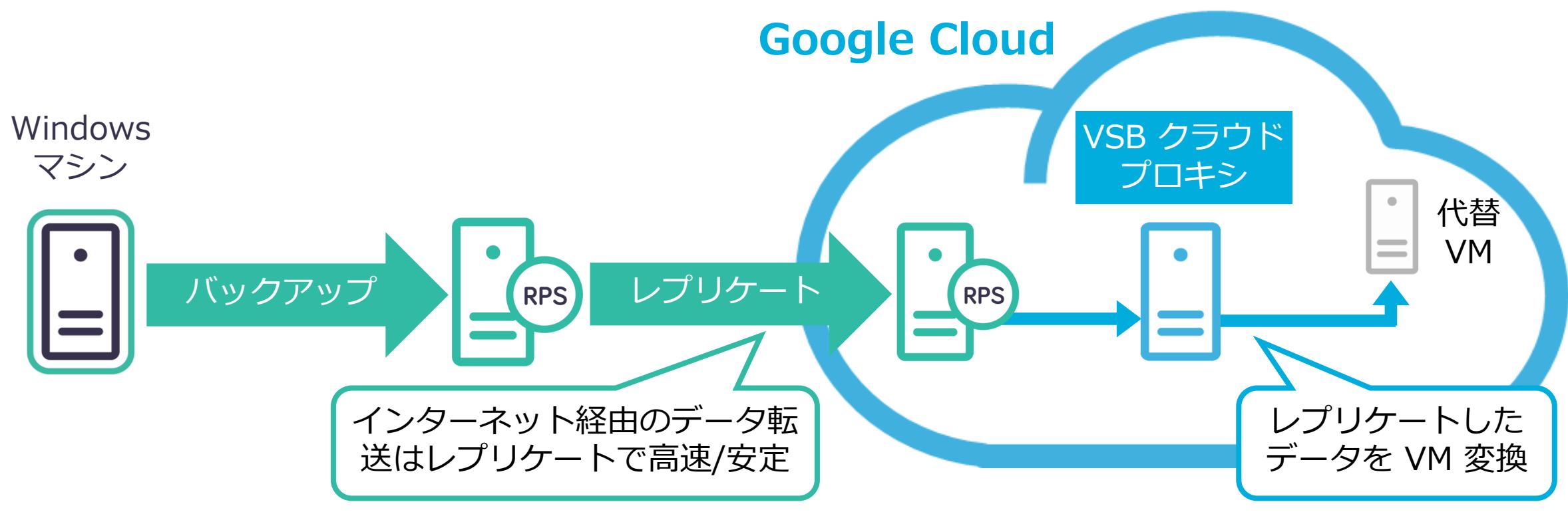


- ✓ Windows マシンのバックアップ データを利用し Google Cloud 上に代替 VM を作成
- ✓ 手動で仮想スタンバイの実行も可
- ✓ オンプレミス環境から Google Cloud への移行にも利用可能

※ Amazon EC2 / Microsoft Azure への仮想
スタンバイは 従来バージョンより可能

Google Cloud 上の仮想スタンバイの構成例

Google Cloud にバックアップデータを転送してから VM 変換

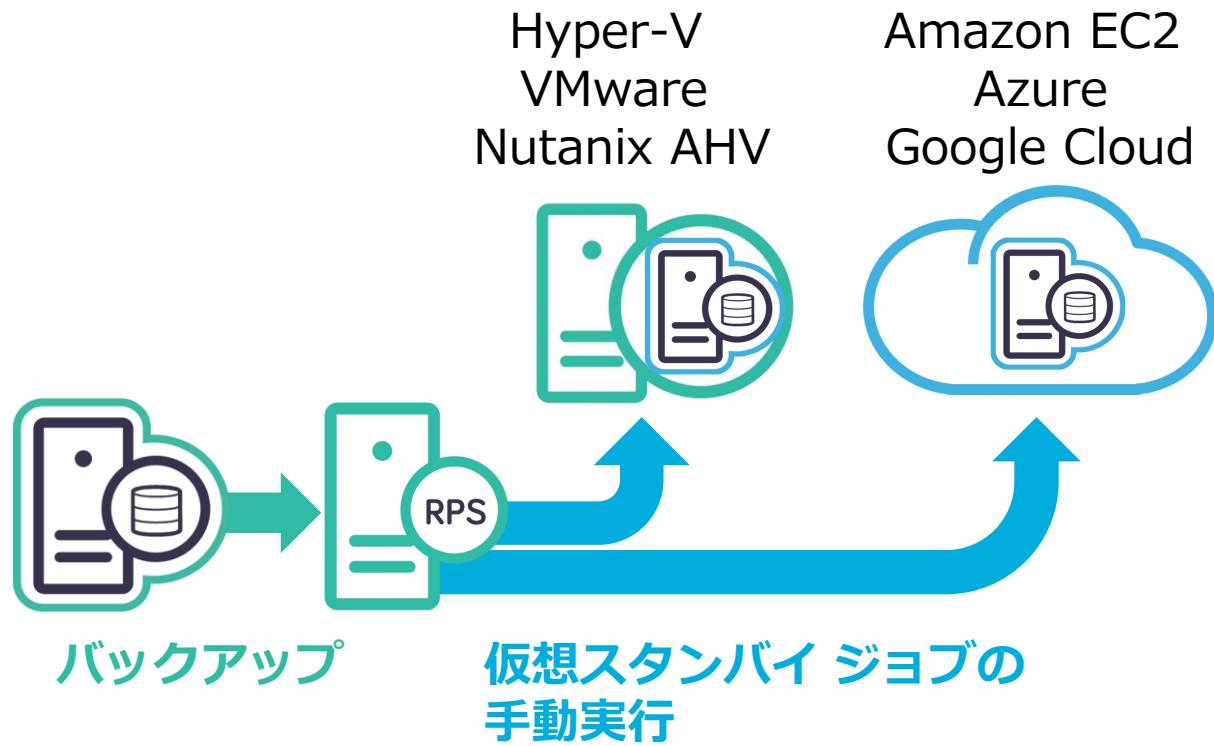


- ※ VSB クラウド プロキシには Arcserve UDP Windows Agentを導入が必要。RPS との同居も可能
- ※ 「VSB」は Virtual Stand-By (仮想スタンバイ) の略語

仮想スタンバイ ジョブの手動実行 (アドホック仮想スタンバイ)

お客様に
とっての
価値

パブリック クラウド(Amazon EC2, Azure, Google Cloud)上で
簡単にシステム復旧が出来る

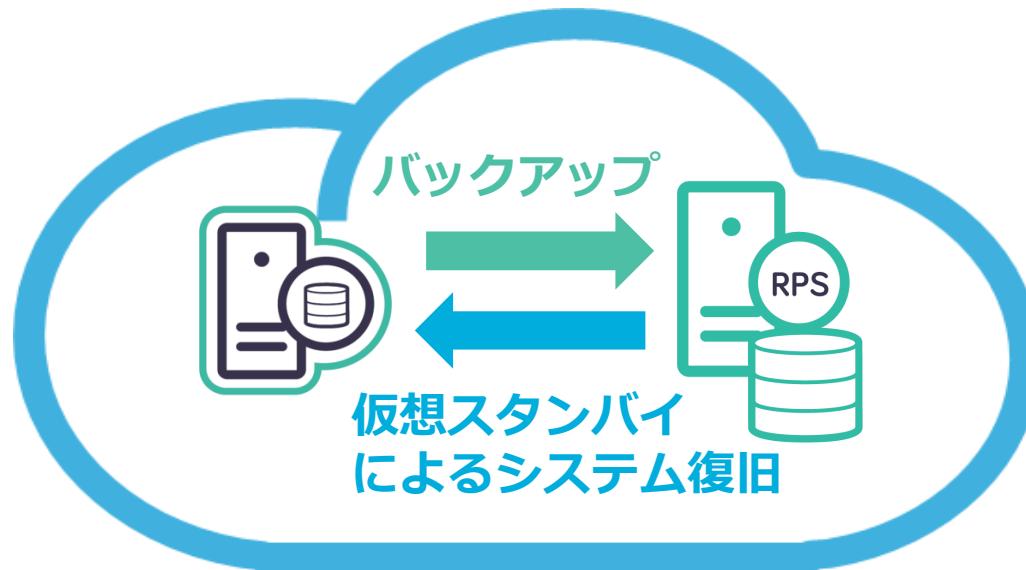


- ✓ 必要になった時点で、事前準備無しで仮想スタンバイを実行できる
- ✓ バックアップ元と仮想スタンバイ先が異なる仮想環境でも利用が可能
- ✓ バックアップ または レプリケートのデータで実行可
- ✓ 複数個所にスタンバイ VM を作成できる

※ 仮想スタンバイ ジョブの手動実行には RPS が必須

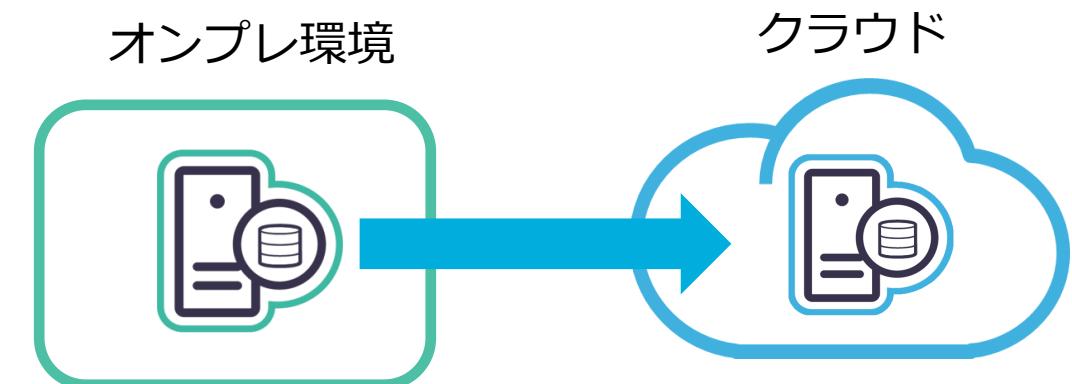
仮想スタンバイ ジョブ手動実行の利用例

クラウド VM のシステム復旧で利用



Arcserve UDP コンソールから簡単な操作で
クラウド VM のシステム復旧が可能

クラウドへの移行ツールとしても利用

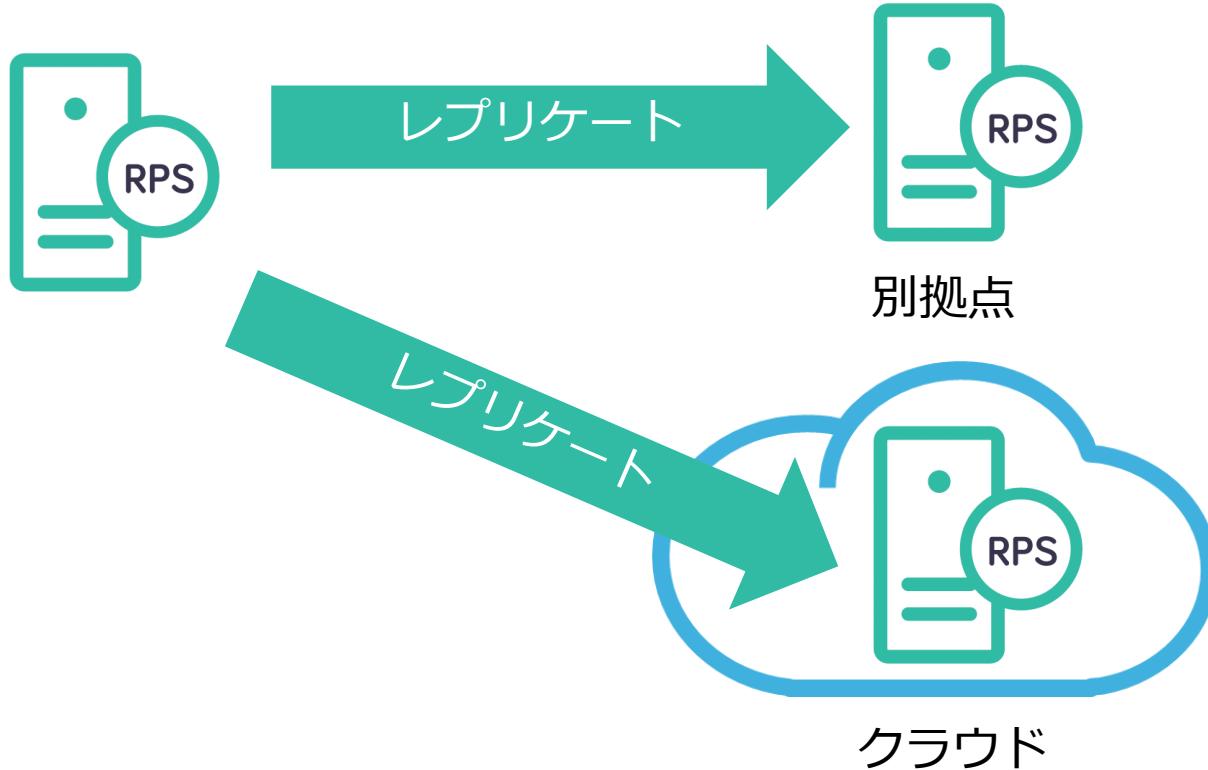


いつでも AWS, Azure, Google Cloud へ
移行できる

1対多の RPS レプリケート

お客様に
とっての
価値

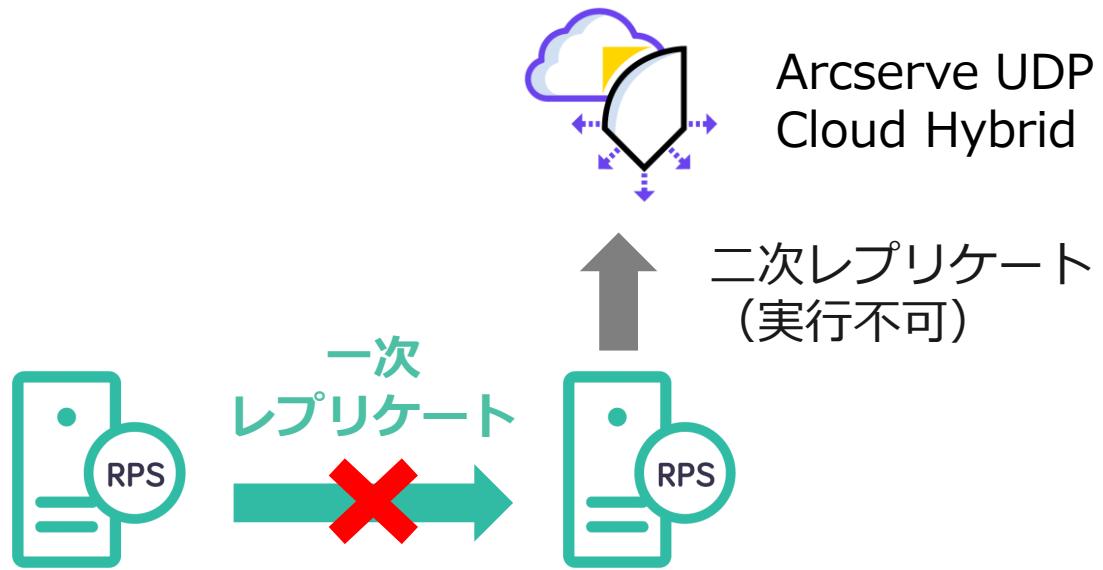
バックアップデータを柔軟に冗長化し、
災害時の業務継続性を強化できる



- ✓ 1台の復旧ポイントサーバ (RPS) から複数の RPS へレプリケートできる
- ✓ Arcserve UDP Cloud Hybrid など、異なるコンソールで管理される RPS へのレプリケートとも組み合わせられる
- ✓ 複数のレプリケート ジョブを順列で行うか、並列で行うかを設定可能

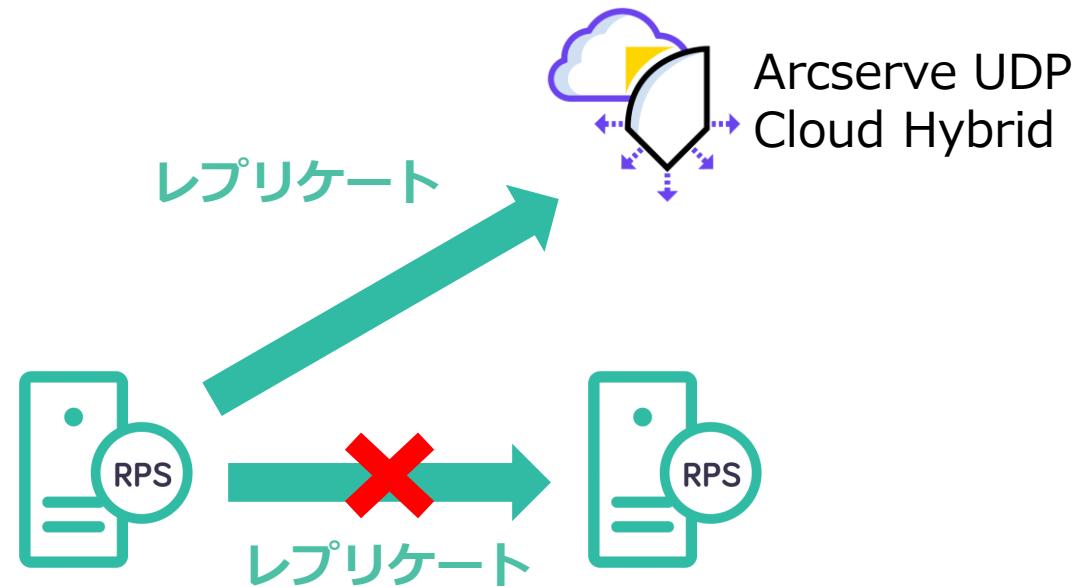
＜参考＞1対多レプリケートの活用例～ジョブ失敗時の挙動

1対1対1のレプリケート



一次レプリケートジョブが失敗した場合、
二次レプリケートジョブは**実行不可**

1対多のレプリケート (Arcserve UDP 10.0 以降)

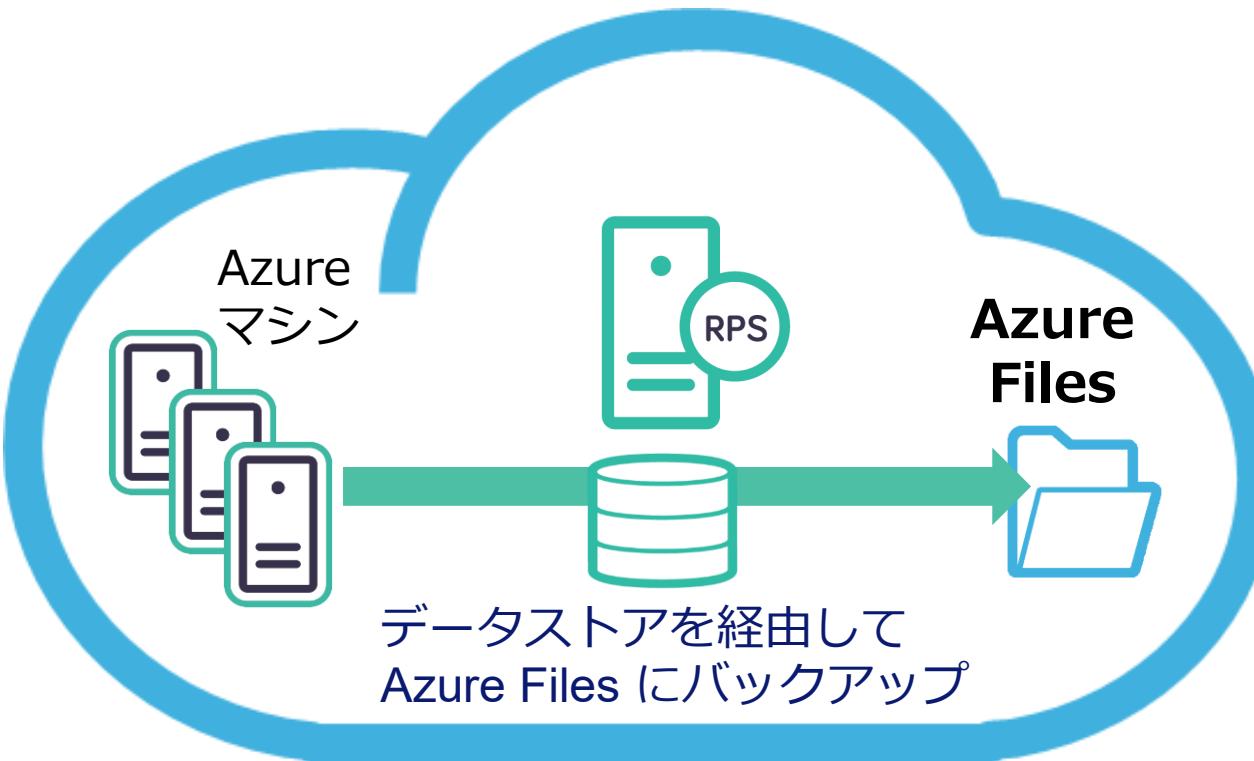


1か所レプリケートジョブが失敗しても
他のレプリケートジョブは**継続実行**

Azure Files への対応

お客様に
とっての
価値

バックアップデータの保管先に Azure Files が利用できる

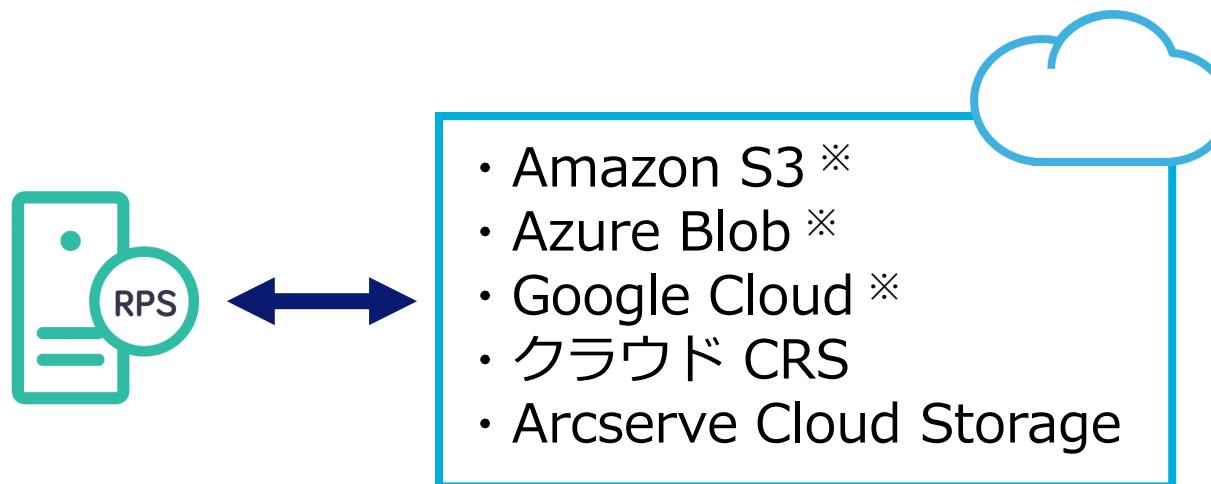


- ✓ Azure Files を復旧ポイントサーバ (RPS) のデスティネーション (データの保存先) に指定できる
- ✓ Azure Files のような長いパスワードに対応 (最大 120文字)
- ✓ RPS を導入しないスタンダードアロン構成でも利用可能

AWS/Azure/Google Cloud データストア

お客様に
とっての
価値

クラウドストレージを活用して RPS を柔軟に拡張し、
IaaS のバックアップをより安価に実現



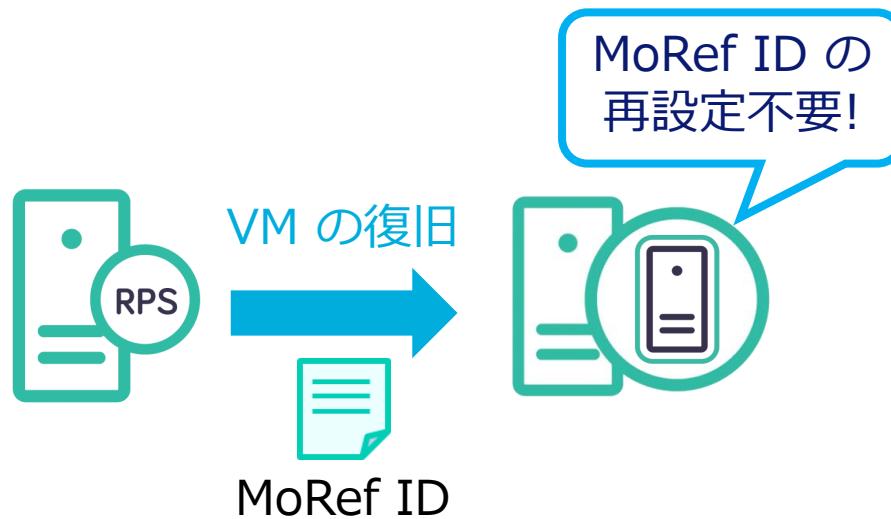
- ✓ RPS データストアのデータ デスティネーションに、オブジェクトストレージを指定し、1次バックアップ先としても使える
- ✓ 繼続的な増分バックアップ/重複排除で、ストレージコストをさらに抑制
- ✓ データストアからのアドホック仮想スタンバイで、クラウド VM を簡単復旧

※ Arcserve UDP Premium Edition 以上が必要

vSphere 仮想マシンの復旧機能の強化

お客様に
とっての
価値

仮想マシンの復旧後も VM 運用の継続性を確保できる



- ✓ 仮想マシンの復旧時に MoRef (管理オブジェクトリファレンス) ID も復旧できるように
- ✓ 復旧後の再設定が不要で、vMotion などによる VM 移動が可能に



その他の変更点

新規 OS / アプリケーションのサポート ①

- **Windows Server 2025 のサポート ※1**
- **Red Hat Enterprise Linux / AlmaLinux / Rocky Linux 9.4, 9.5 ※2, 9.6 ※3, 10.0 ※4**
- **Oracle Linux 9.4, 9.5 ※2, 9.6 ※3, 10.0 ※4(RHEL互換およびUEK)**
- **Debian 11.6-11.10, 12.0-12.7, 12.8 ※2, 12.9-12.10 ※3, 13.0 ※4**
- **Ubuntu 24.04**
- **SUSE Linux Enterprise Server 15 SP6 ※2, SP7 ※4**
- **Linux 6.x 系カーネル**

※1 Arcserve UDP 10.0 は P00003362 の適用が必要、Arcserve UDP 10.1 以降はパッチ不要

※2 Arcserve UDP 10.1 以降でサポート

※3 Arcserve UDP 10.2 以降でサポート

※4 Arcserve UDP 10.3 以降でサポート

新規 OS / アプリケーションのサポート ②

- **VMware vSphere 8.0 Update 3, 9.0** ※2
- **Nutanix AHV 6.10** ※1, **7.0** ※2, **7.3** ※2
- **Nutanix Files 5.0.z** ※1
- **NetApp Data ONTAP 9.11.1, 9.12.1, 9.13.1, 9.14.1, 9.16.1** ※1
- **Microsoft Exchange Server SE** ※2

※1 Arcserve UDP 10.1 以降でサポート

※2 Arcserve UDP 10.3 以降でサポート

その他の拡張機能および変更点

- Red Hat Enterprise Linux 9.x 系の ベアメタル復旧 (BMR) / インストント VM サポート
- AlmaLinux GNOME Live CD サポート ※1
- RPS データストア用の共有フォルダ設定の削除
- TLS 1.3 サポート
- 「アシュアードセキュリティ - マルウェアスキャン」名称変更 ※2
- Arcserve CRS シリーズのライセンス管理の強化 ※2
Arcserve CRS シリーズのサブスクリプション期間およびデータ容量に関する警告メッセージなど

※1 Arcserve UDP 10.1 以降でサポート

参考ブログ：[Arcserve UDP 10.1 をリリースしました \(拡張機能編\)](#)

※2 Arcserve UDP 10.3 以降で対応



arcserve Japan合同会社

〒101-0051 東京都千代田区神田神保町1-105
神保町三井ビルディング

購入前のお問い合わせ:

Tel: 0120-410-116 (営業時間: 平日 9:00~17:30)

E-mail : JapanDirect@arcserve.com

Webフォーム: [お問い合わせフォーム](#)

arcserve/jp

This document could include technical inaccuracies or typographical errors. Changes are periodically made to the information herein. These changes may be incorporated in new editions of this document. Arcserve may make improvements in or changes to the content described in this document at any time.

© 2025 Arcserve. All rights reserved. All Arcserve marks referenced in this presentation are trademarks or registered trademarks of Arcserve in the United States. All third party trademarks are the property of their respective owners.